

## 遊休地及び荒廃農地の利用促進／新垣雅士

(議会だよりでの件名は、村長施政方針の農林水産業推進について)

■6番 新垣雅士議員 『村長の施政方針』の中から3点ほど質問したいと思います。まず、施策の第3で「《産業》“里山・里海を活かした産業が息づく島”」、「農林水産業の推進について」の①に関して、お伺いしたいと思います。その中で「遊休地及び荒廃農地の利用促進」とありますが、どのように利用促進を図っていこうとお考えなんでしょうか、伺いたいと思います。

■議長（金城信光） 答弁、農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 6番 新垣議員の一般質問にお答えします。現在、農村漁村振興交付金内の最適土地利用総合対策事業を活用し、区にある遊休農地にて粗放的利用の実証的な取り組みを行うための整備補助を進めています。今年度は各地域において協議を設け、地域ぐるみの話し合いにより事業を活用する遊休農地の指定と、どのような粗放的取り組みをしていくのかを決め、自走後の管理も地域で行うか個人で行うかを話し合い、最終的に土地利用構想図に示し、伊平屋村土地利用構想として作成を実施中であり、土地利用構想図に示すことにより、遊休農地の基盤整備を進め荒廃農地の解消につながることで、新しい作物や農業の取り組みを効果検証することができ、活用の幅も広げることができることと思っています。

令和 6 年度から令和 10 年度にかけて 5 年間、先ほど申し上げた農村漁村進行交付金を活用して、ソフト的な整備、令和 6 年度は地域計画という「10 年後、誰がこの農地を使うか」というものを集落に入って皆さんと話し合っ決めて、目標地図というのを作成しています。今年度が、先ほど申し上げたように「遊休地及び荒廃農地について、どうしていくか」という話し合いを進めている段階です。今月で、その内容についてはまとまります。

令和 8 年度も同じようなかたちで集落に入って、今後どういった作物を展開していくかという話を進めながら、令和 9 年、10 年にはハード整備、先ほど言ったようにハードの整備にしては 4,800 万程度を予定しています。その農地で、水が湧いて使えないとか、遊休農地や荒廃農地というのは農業ができないからそういう状況になっていると思いますので、どういった理由でそういう状況になっているかというのを皆さんと話し合っ、「じゃあ、そこを整備しましょう。また、今後どういった作物を展開しましょう」という話し合いの中で進めていければと考えています。

事業も 100%補助で、県内では中城村、金武町、伊平屋村と 3 地区しかやっていません。担当に、「この事業が、話し合いの中でもう少し事業費が欲しいといった場合に、増額できるのか」、そのへんも確認している状況です。今後また、地域と話し合いをしながら進めていきたいと考えています。

■議長（金城信光） 新垣議員。

■6番 新垣雅士議員 ただ今、課長から答弁ありましたけど、耕作放棄地、遊休地については、アバウトでありますけれども24.9ヘクタールぐらいあると。これを整備するということですが、私がこれについて質問したのは、この24.9ヘクタールを従来のサトウキビ、米、これでいくのかということをお聞きしたかったんですけれども、課長はいろんな作物の展開を考えているということでしたので、それはそれでいいと思います。

サトウキビに関しては、去年の反収で4.1ぐらいだと思うんですが、実際の製糖工場の採算ベースが5千トンぐらいですね。今のサトウキビ4.1、実際に農地に堆肥を入れたりとかして反収をアップすれば、これだけの面積は必要ないんじゃないかと思います。先ほど、課長がおっしゃっていましたが新しい作物、これはどういうものにしたいとか具体的なものがあつたら、答弁をお願いします。

■議長（金城信光） 農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 新垣議員の質疑にお答えします。土地改良した地区にしかこの事業は入れられませんので、現状は4地区。お話した中では、伊平屋にあるハマボウフウ、ヤマブドウというのが出ていました。あとヒレザンショウ、デントコーンといって飼料用のトウモロコシを計画しています。

先ほど言ったように製糖工場は5千トン工場です。現在の反収が県平

均以下ですので4トンとして、県平均はだいたい6トン、それが6トンになった場合にどれだけ面積を減らしていった他の作物に転換しないといけないかというのも、シミュレーションとしてやっている状況で、製糖工場は「最大で5千5百トンぐらいだ」と言っていました。

前年度がだいたい5千5百トンなので、製糖工場としては、もうマックスぐらいやっている。120ですね、12月から3月までのあいだの、それを超えると、例えば甘みとかも糖度が下がっていくということで、もう4カ月が限界じゃないかという話をしているので、そのへんも含めて新しい作物に転換できればと思っています。

今後も事業の内容は詰めていきます。並行して土壌分析とか土作りも次年度にする予定なので、その中でまた実際にサトウキビの反収が上がった場合に、どういった作物が適しているのかということも含めて検討できればと考えています。

■議長（金城信光） 新垣議員。

■6番 新垣雅士議員 新しい作物をいろいろ模索しているということですが、放棄地の部分の開拓が一番問題になる、農業として一番大事な水の問題が出てくると思うんですね。「現に今も水不足で、島尻区は田植えもできるかできないか」という状態にあるんですけれども、水源地の確保とかも構想にあるんですか。

■議長（金城信光） 農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 新垣議員の質疑にお答えします。おっしゃる

とおり、水田が 45 ヘクタールです。全盛期が 100 ヘクタールぐらいありましたので、2 分の 1 以下になっています。先ほどもお話したように、村としては水田があるから「原風景」ということも言えていると思いますので、その原風景として 90 ヘクタールぐらいは戻していければと考えています。

ただ、水の問題があります。かつては我喜屋区に水田がとても多くあり、イリシナダムと前原ダムという大きいダムがあるので、「将来的には我喜屋区を水田に戻していければ」と考えています。

島尻地区については、阿波北沢貯水池に水が貯まらない状況であります。今年の前半で簡易的な補修工事をやりました。10 年に事業採択を要望しようと考えていて、給排水の整備などもセットで、全て進めたいと考えています。その水が確保できた場合に、「島尻も水田を広げていけるのかな」と考えているところです。

■議長（金城信光） 新垣議員。

■6 番 新垣雅士議員 いろいろ対策をうっていくということで、「原風景に戻す」という、観光につながる部分、それから「農家の所得を向上させる」という部分でも、いろいろ考えられて政策をうっているということが分かりました。ありがとうございました。この質問についてはこれで終わります。